

広
報

よこしばひかり

人から人へ 歴史を受け継ぎ 今に伝える伝統芸能

「鬼来迎」と「中台梯子獅子」が4年ぶりに行われました



大序 地獄の閻魔の庁の設定で、閻魔・俱生神・鬼婆・黒赤鬼が勢ぞろいして亡者の生前の罪を判じている場面

虫生地区に伝わる「鬼来迎」

8月16日、鬼来迎が虫生地区にある広済寺で公開されました。

虫生地区に伝わる「鬼来迎」は、毎年8月16日お盆の行事として広済寺の境内で行われている仏教劇で、その起源は鎌倉時代初期に遡るといわれ、約800年の歴史を地区の人たちが受け継いでいます。

大序・賽の河原・釜入れ・死出の山の四段を演じ、仏教の教えである因果応報・勸善懲惡を説いています。

かつては大序と賽の河原の間に、和尚道行・墓参・和尚物語の広済寺建立縁起譚が演じられ、合わせて七段から構成されていました。

賽の河原で演じた子どもの亡者が地藏菩薩に救われる場面では、観客の涙を誘いました。また、大序の終わりに虫封じと呼ばれる生まれたばかりの赤ちゃんを鬼婆が抱く場面があります。鬼婆に抱いてもらおうと健康に育つという言い伝えがあり、この日は赤ちゃんを連れた多くの家族が訪れました。

指 定 国指定重要無形民俗文化財

指 定 日 昭和51年5月4日

伝 承 者 鬼来迎保存会

広報紙が動き出す

1 アプリをダウンロード・起動



[COCOAR]



2 表紙にスマートフォンをかざすと今年の鬼来迎の様子が動画で見られます

今月号の主な内容

- P2-3 住民参加型町防災訓練を実施しました
- P4 新型コロナウイルス ワクチン情報(その18)
- P5 高齢者予防接種のご案内
- P6 栗山川周辺環境ボランティア募集

最新情報をリアルタイムで配信!

よこしばひかりまちナビ2

町公式スマートフォンアプリ

iOS 用

Android 用